俳句

大津俳句会

遠蛙よりも遠くに村灯　井芹眞一郎

原爆忌無念の名前連ねたる　秋山　恵

手花火や子等の歓声聞きながら　大塚喜久子

虫の音の聞こゑはじめし夕まぐれ　佐賀　久子

庭手入して風鈴の機嫌よく　松尾　昭雅

振り上げし構への見事子螳螂　岡崎　浩子

産み月の娘との夕餉やとろろ汁　佐澤　俊子

俳句

つのはな句会

夏の乱くり返す人の愚かさ　田上　公代

そら耳に軍靴ザクザク八月来　木庭　杏子

ブローチの鳩八月もつけている　上杉　波

青と黄の折り鶴翔(た)たす星今宵　矢嶋　道子

子等の顔花火にパッと浮かびでる　水野　春子

大空に飛びだす覚悟　てんとう虫　梅木トキエ

子らの来て囲む食卓額の花　塚本　洋子

ゲルニカへ草矢届かず雨の午後　榮田しのぶ

熱波来てにっぽんの四季狂わせる　志賀　孝子

短歌

大津短歌会

盆栽の藤の老木蕾つけのれんのごとく房延ばしゆく　豊岡ミツル

病床の夫の鳴らせし呼び鈴の聞こえて五月の忌日近まる　吉永　恵子

戦争とう非日常が日常となる危うさよひしと猫抱く　坂本　杲子

庭先に季節外れの赤とんぼしばし遊びて何処へか消ゆ　鞍　岳志

満ちたりて帰る車窓ゆ見て見てと青田の畦で遊ぶ白鷺　管野　静

太平洋ヨットに止まる燕ありしばし休みて飛び立ち行けり　小平　善行